

第一〇一回

二科展 金沢展

平成28年 11月11日(金)～20日(日) 金沢21世紀美術館 市民ギャラリーA・B



第101回二科展金沢展（二科会・北国新聞社・石川県芸術文化協会主催）は、金沢21世紀美術館市民ギャラリーA・Bの2会場で絵画・彫刻・デザイン・写真の4部門の作品、310点が美の空間を演出しました。

11月11日（金）～20日（日）の10日間、約5千人の来場があり、来場者は作家のみずみずしい感性にふれ、盛況うちに閉幕しました。

石川県と富山県からの地元作品を中心に本展からの選抜作品が披露され、市民ギャラリーAで行われた開場式では、主催者である二科会や北国新聞社をはじめ、多くの美術関係者から賛辞を頂きました。



絵画部

北陸支部から内閣総理大臣賞の受賞や初入選が話題となり、会友に推挙された歌手の作品とともに多くの来場者の注目を集めました。



評議員の山岸支部長・五味祥子・粕谷正一の3氏が解説を担当し、たくさんのギャラリーを集め、作家の意図や作品鑑賞のポイントなどをわかりやすく話しました。また、高校の美術専門コース、中学校の美術部の団体鑑賞があり、感性を磨くとともに絵画の主張を引き出すための構図・構成のポイントや効果的な技法に触れ、後進の育成の場となりました。



彫刻部

中央に置かれた大作の周りを気鋭の小品がずらりと並び、来場者は一つ一つの作品について足を止め、造形美や細部の仕上がりの美しさを丹念に味わう様子が伺えました。

高校の美術専門コースの団体鑑賞では、造形作品の量やフォルムについて学ぼうとする真剣な表情が報じられました。



デザイン部

北陸支部事務局長で会員の響 恵一氏がていねいに解説しました。来場者は、会場から明るく華やかなアイデアを感じ取っていました。

また、高校のデザイン科が団体鑑賞し、発想の豊かさや構想の意外性を学びとっていました。

話題のアイドルグループのメンバーの作品も出品されており、会場は終始賑わいを見せていました。



写真部

石川支部から日本カメラ財団賞の受賞があり、会員で石川支部長の土田貴夫氏が良い写真を撮るポイントや対象に向き合う心構えについて、情熱的に作品解説を行いました。69点の展示作品の中には人気俳優の出品作もあり、写真を愛好する人々が、作品について語り合っている場面があちこちで見られ好評を博していました。



二科販売コーナー

◇終始盛況◇

ありがとうございました
来場者と気楽に交流でき
話題も弾みました。



(文責 絵画部会員 茶谷弥宏)